

2016年3月期第3四半期アナリスト向け決算説明会質疑応答議事録

日時	平成28年2月3日 10:00-11:00
場所	丸の内トラストシティカンファレンス Room3+4
当社出席者	代表取締役 副社長 畑 佳秀 執行役員 広報IR部長 中島 茂
出席者数	74名

Q-1

豪州事業において赤字転落と見ていたが最終黒字になった背景は？

A-1

内部での生産性改善や効率化の実施効果が発現してきた事に加え、マーケティングを実施し、販売価格が高い地域に販売する戦略を実施した事が奏功した。

Q-2

国内食肉市況において鶏の価格が下がってきた事に加え、豚についても安値が続いている。数年前輸入鶏肉の在庫が過剰になり減益した時と環境が似ていると思うが？

A-2

輸入鶏肉については現時点で堅調に出荷されている。輸入鶏肉の在庫は11月で増加しているが加工用胸肉の荷余り感が有り、暖冬の影響で年末不振だったが、足元では寒さが戻ってきたため単価が上がって来ている。

Q-3

加工食品をフード会社で売ると言う事は食肉事業本部の売上になり、加工事業本部の利益には反映してこないのではないか？

A-3

加工事業本部のトップラインに出てこないが、販売が増えれば工場稼働などの部分に好影響を与える。

Q-4

豪州事業の業績は現在が底と考えて良いのか？

A-4

4Qは季節性の問題もあり例年出荷数量が減少するため赤字になる見通し。仕入コストも高値のままだが数年前の様に素牛の奪い合いの状況はなく、工場の稼働率を落とし仕入れを抑えている状況である。

来期に向けては上半期は厳しい状況が続くと思うが、マーケティングをしっかり行い販売エリアを選別して行く事に加え、ブランド戦略を進めて改善して行きたい。

Q-5

豪州事業の4Qの計画と前提条件は？また来期の営業利益のイメージは海外事業でのマイナスを国内でカバーとのイメージか？

A-5

仕入コストが依然高止まりしており、3Qではアメリカへの販売価格が下がっている等不透明な状況が続いている為4億円の赤字を見込んでいる。

来期の営業利益のイメージは期初より取り組んでいる肥育牛の比率UPやフィードロットの拡充等でカバーして行く。

Q-6

プレミアムキッチンの進捗は計画通りか？

A-6

計画より△1～△2億円で推移している。

Q-7

エゲ-タブの計画については？

A-7

期初インフルエンザが発生し一旦投資をストップしている状況。今期については利益は若干のマイナスになる。

Q-8

米州のファーム事業については？

A-8

今期通期見込が△30億円だが、来期については生産効率の改善や、縮小化を図り出来ればフラットまでに持っていきたい。

以上